



= いまの憲法が私たちの暮らしを護る =

学術会議 任命拒否

国民は政権に白紙委任していません。

菅内閣が発足して一ヶ月、直近の世論調査によれば就任時のご祝儀相場で過分の高支持率を維持していましたが早くも下落しました。国民の目に何かが見え始めてきたのでしょうか。

菅首相の書いた本が出版されました。民主党政権当時の改訂版です。初版本には「議事録や公文書の管理がなっていない。国民にとって大切な記録だ」と民主党の政権運営を批判する部分がありました。改訂版にはその部分がそっくり削除されています。自衛隊日報の隠蔽、森友、加計、桜を見る会などの文書管理問題は初版に書き記した公文書の扱いとどう整合性をとるつもりでしょう。菅首相の変節というだけでなく、いまの自民党の体質だと言っても過言ではないように思います。公文書は民主主義の根幹を支える国民の財産です。それをな

負託に応えていないということ。ここにきて学術会議の新

員候補のうち6人の任命を拒否し、理由の説明を拒んでいます。10億円の予算を使っているとか、公務員の人事だとか、組織の在り方にまで議論のすり替えを行っています。為政者に不都合なことであっても国民のための政治が行われるよう広い視野にたった批判や提言無くして民主主義は成り立ちません。戦前の反省から、政府から独立して職務を行う「特別の機関」として設立された学術会議はその役割を担っています。賛同も異論も批判も、受け止めたうえで政策を練り執行することこそ、総合的、俯瞰的立場のはずです。このことを抜きにしての政治は国民無視の自分勝手な政治というほかあ

りません。学術会議名簿から6人を外したことは改ざんが疑わしく、しかも拒否した理由を説明しないことは国民に対しての裏切りです。政権に全てを白紙委任しているわけではありません。

「学術会議問題」を話し合います。

- 11月15日(日) 13:30～15:00
- 野田市総合福祉会館 第1会議室

学問の世界に政治介入することを見逃すわけにはいきません。是非お出かけください。

① 報告①

10月8日から13日に市役所ふれあいギャラリーで行われた展示「平和のつどい13年の軌跡」は140人を超える来場者で成功裏に終わった。じっくり戦争の遺品や原爆の写真に見入る人、ペシャワールや沖縄の現実、戦争中の食べ物に感心する人、コロナについての手作り紙芝居を孫に見せたいという人などなど。

平和のつどい展示好評でした。



例年夏に行われる「平和のつどい」がコロナ禍でできなかったが、違う形をとってでも意義は大きいといえよう。

東京新聞でも紹介され鈴木市長も来場された。



今月の予定です

_ 皆さん 気軽に参加ください _



11月1日(日) 13:30～16:40

DMD視聴と意見交換 沖縄「出口なき」戦場最後の1カ月 劇映画 沖縄「一坪たりとも渡すまい」

南部梅郷公民館 南地域九条の会

11月9日(月) 16:00～17:00

9の日 行動

ボードでアピールと九条通信配布

梅郷駅 通路 野田・九条の会

11月15日(日) 13:30～16:00

野田・九条の会 学術会議任命拒否を考える 11月例会 「報道特集」を見てレポート、意見交換 総合福祉会館 第1会議室 野田・九条の会

11月19日(木) 16:00～17:00

9の日 行動

ボードでアピールと九条通信配布

七光台駅 通路 野田・九条の会

11月29日(日) 16:00～17:00

9の日 行動

ボードでアピールと九条通信配布

川間駅 北口 野田・九条の会

12月6日(日) 13:30～16:40

DVD視聴と意見交換 沖縄の歴史を学び考えるシリーズ② 劇映画 沖縄第二部「怒りの島」

南部梅郷公民館 南地域九条の会

説明しない菅首相 報じない大マスコミ

ことは重大な問題をはらみ続けることになるだろう。菅首相が日本学術会議の新会員6名を拒否したことだ。学問の自由のみに止まらず、日本国憲法に基づき築き上げ培ってきた民主主義の常道を踏み外しかねないことだ。有無を言わず権力で抑え込もうとする姿があらわとなって来た。問題は6名をなぜ推薦名簿から外したか説明できるかに尽きる。政府として説明できるかといえば決してできないだろう。過去に安保法制ほかの安倍政治への批判があり、これを良しとしないことが基となっているからだ。予想もしない事態に菅政権は、問題は学術会議そのものにある、また国費を投入している、さらには行革対象を検討などと論点ずらしに躍起となっている。今後は、強権を振りかざしてはばからない政権との息の長い戦いが続くことになるだろう。マスコミには、政治の公正さを厳しく求め、国民に真実を正しく伝え、知らせる使命を果たしてもらわなければならない。だがその大マスコミに問題ありだ。

右掲の一枚に注目いただきたい。奥に菅首相、テーブルクロスが掛かった左右の席に3名、手前には何名かの記者をとらえている。これは10月5日から始まったグループインタビューというものであり、質問はテーブル席の3人に限られ同席している記者には一切質問は許されない。さらにこの場への入室抽選で漏れた記者は別室で音声のみ聞くよう取材制限されている。これはもはやコロナ対策にあらず、大マスコミが許してしまった独裁後進国の姿だろう。新聞には首相の一日を報じる欄がある。10月3日を確認いただきたい。朝食会と称した報道各社の首相番記者と懇談とある。これではなんのことかさっぱりわからない。実態は首相との完全オフレコの朝食会であり、ここで話したことは一切国民に知らせないことを前提としている。国民に真実を知らせるべき報道機関が、報道しないことを承知で政権とつるんでいる。ちなみに朝日、東京、京都新聞は参加せず、記者会見をすべきとしていた。国民に説明できないことを特定の者同士が握り合い、そして消し去ろうとしている。この事態にパンケーキ有名店で同席懇談した記者らは、身を以て官邸前ハンストで抗議する著述家の姿を他人事としてはならない。主権者国民はおとなしくしてはいられない。



首相の一日 3日

【午前】7時24分、東京・神宮前のレストラン「Eggs n T h i n g s 原宿店」。報道各社の首相番記者と懇談。報道各社の東京・北青山周辺を散歩。10時8分、東京・赤坂の衆院議員宿舎。

父と兜太と日銀と

鈴木由紀枝

父は「アベ政治を許さない」を揮毫した俳人・金子兜太と同じ1919年生まれ。兜太は南方へ、父は満州で終戦を迎えた。東大卒と高小卒の大きな違いはあるが、戦後日本銀行で一緒に働き同じ年に定年退職を迎えている。もう聞く術もないが、何故父は日本銀行に入れたのか？ずっと疑問に思っていた。



外地から引き揚げてきた日本兵が、仕事の上で優遇されていたという話を聞いたが、何をしておの優遇だったのか。父もその一員だった

のか。支那事変と書かれた勲章が二つ。満州で左横腹に銃撃を受けそのまま現地に。昭和23年にやっと日本へ帰ってこられたということと、晒の腹巻の下の銃創の痕。酔うと中国語を得意げに教えてくれたことぐらいしか知らない。いつ頃満州に行き、そこで何をしていたのか知りたいという思いより、怖いという思いの方が強く聞くことはできなかった。だが、父は日銀で誇りをもって働いていた。

実家の鴨居に掛けられていた「日本銀行本店」の写真が父の死後いつの間にか外されていた。多分母の仕業だろう。父の遺族年金と軍人恩給で一人になってからも金銭的な不自由はなかったらしいが、どこかに「捨ててしまいたい」何かを抱えていたのだろう。